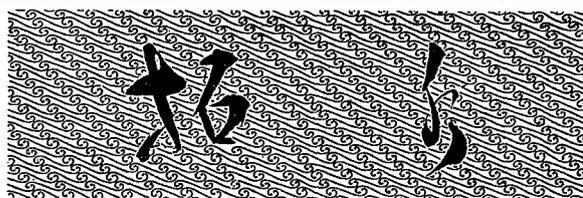


10月号 No. 372 一部 10円

発行所 兵庫県漁業協同組合連合会(財) 兵庫県水産振興基金 神戸市兵庫区中之島 2-2-1 TEL 681-6954~7 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会

豊かで充実した老後を 漁業者年金

ひとりとは万人のために、万人はひとりのために



昭和62年度 第2回漁業協同組合長・役員 研修会を開催

昭和六十二年度第2回 漁業協同組合長・役員(株)神戸製鋼所新事業研修会を、九月二日(月)、チサンホテル(神戸)六甲の間)に於いて開催。県下の各漁協から、組合長、役員百二十四名が出席し、研修いたしました。厳しい漁業環境を乗りこえるために、経営改善策や、水産物流通変化にどう対応してゆくかを研鑽、協同組合の健全な発展に努めました。本年度より、年一回開催することとなったこの研修会は、現在漁協がかかえている諸課題を、各界の見識者からその対応について数々講演いただいております。本年度第二回目の今回は、「鉄鋼業における経営の多角化」と題し、(株)神戸製鋼所新事業本部事業開発部長 岡義彦氏、「21世紀の流通はどうか」のテーマで、神戸大学教授 秋谷重男氏を講師に、水産物流通の変化にどう対応するかと題して、埼玉大学教授 秋谷重男氏の両氏よりご講演いただきました。研修会は、開催にあたり主催者、酒部漁連会長理事より、二〇〇海里による漁場規制と輸入水産物拡大による魚価の低迷が続く中、特に日本海での韓国漁船の不法操業による資源の枯渇は、一触即発しかねない状況であり、内海においても赤潮による養殖魚被害、漁船漁業の不振とともに、基幹産業としての、

養殖もきびしく、全員が一致協力して努力していく必要があらわになってきた。来賓を代表して、廣末県水産課長より、八月一日より水産課長を拝命、本県では、2001年農林水産業振興計画を策定し、その実現に向け努力しているところであり各位のご協力をお願いしたい。本日の研修成果をひとつでも多く漁協運営に生かしていただきたいとの挨拶があり、研修会終了後参加者から、「水産物の供給だけでなく、経営の多角化も考えていかなければ」、「情報化時代の流通問題ととらえ、消費者の変化を



挨拶する酒部漁連会長

漁業士視察研修会実施 ～北海道を訪問～

去る十月一日から三日にかけて、(財)兵庫県水産振興基金の主催による漁業士代表者7名参加のもとで漁業士視察研修会が実施されました。

本年度より地域漁業の中核的な担い手としての青年漁業士が31名、漁業青年育成に指導的役割を果す指導漁業士が4名兵庫県により認定されました。

本研修会はこの漁業士の水産業をはじめとする社会的視野を広げ、もって漁業士制度の効果をもつて実施されたもので、北海道指導漁業協同組合連合会、札幌市中央卸売市場及び日本化学飼料株式会社をそれぞれ訪問し、北海



日本化学飼料にて



秋谷 重男氏(埼玉大学教授)の講演

淡路 逸品コンクール

みんなて参加、知恵をたしあひ村おこし、新生あわしに名産・名特産を

このコンクールは、近年高まりを見せている各地域での特産品・名産品等の開発意欲を反映して、淡路の関係機関・関係団体が協力し、淡路らしき、新しい、淡路らしき、のある特産品・名産品等を発掘することに、21世紀に向けての淡路の活性化に寄与しようとして、一般から完成品あるいはアイデアを募集し、実施するものである。

1 募集期間 昭和62年10月1日、昭和62年1月末日

2 応募資格

3 募集内容

4 応募方法

5 賞金

賞金額額一〇〇万円

各部門で最優秀賞、優秀賞、佳作を選定

6 送付先(問合せ先)

7 審査方法

8 審査対象から除外するもの

9 その他

10 出品作品は返却しません。

漁協青壮年部 活動シンボルマーク決定

漁協青壮年部活動のシンボルマークを募集しましたところ、図案23点の応募をいただきました。その中から、次の方向の作品が最優秀賞、佳作賞に選ばれました。兵庫県漁連ではこのシンボルマークを使用して漁青連旗を作成し、県下青壮年部員の意志統一を図る予定です。各漁協青壮年部におかれましては、シンボルマークを使用し明日の漁業を担う漁協青壮年部の意識高揚に努めていただきますようお願い申し上げます。

審査結果

○最優秀賞 大久保徹雄さん

(兵庫県水産課) 宮内つや子さん

(阿那賀漁協) 大庫 和子さん

(神戸市垂水区)

説明

- ・さかなの形を抽象化
- ・先端の角度を鋭さで若い感じが表わし、右に拡がっていく
- ・年の拡がる可能性を表す

最近の 水試ノート 漁業資源の動向について

表1 魚介類漁獲量の増減

増減	魚類	水産動物	貝類
増加したの	マイワシ・シラス ヒラメ・カレイ類 マダイ・クロダイ サワラ類・スズキ	クルマエビ ガザミ類	アワビ類
あまり増減のないもの	魚類合計・ブリ類 エイ類・ボラ類 イカナゴ	その他エビ類 その他イカ類 タコ類・ナマコ類	アサリ類
減少したの	カタクチイワシ アジ類・サバ類 エンソ類・ハモ タチウオ	コウイカ類 ウニ類	貝類合計 サザエ ハマグリ類

注：昭和35～50年の平均漁獲量と最近10年間(昭和51～60年)の漁獲量を比較して、1.2倍以上…増加、0.8～1.2倍…増減なし、0.8倍以下…減少、とした。

最近市場調査で浜へ行きますと「カレイが減った」「今年はクルマエビが多い」などと言った漁業者の方の声をよく耳にします。これ以外にも「昔に比べて魚が減った」などいろいろお感じの方も多いことと思います。そこで今回は農林統計資料をもとに、いろいろな魚介類について漁獲量の増減をみてみようと思います。表1に、最近10年間で漁獲量が増えたもの・変わらないうもの・減ったものを示しました。

(魚類) 最近特に増加の目立つのはシラス・マダイ・サワラです。シラス(図1)は昭和58年から急増しており現在では全国一の漁獲量を誇っています。マダイ(図2)は昭和40年代に100トン以下

年代に100トン以下まで減少しましたがその後は順調に増加しています。この原因として漁場環境の好転や放流事業などがあげられています。漁獲量が減少した魚種はいくつかあります。代表的な3種をあげてみます。サバ類(図4)は昭和40年代前半に豊漁時代がありその後は低迷していった。このような種類の魚(他にイワシ類など)は徐々に減少するのではなく、急激な変化で豊漁時代と不漁時代をくり返しており、この10年間ほどは不漁時代に当たっていると思われる。

次にカタクチイワシ(図5)ですが、昭和30年代中頃の2〜3万トンから最近では5千

ン程度に激しく減少しています。この変化は資源の状況も反映していると思えますが、何と云っても大きいのは需要の変化です。味噌汁のだし取りとして使われていた煮干しとして学調味料にとって変わったのがそれです。また、需要がチリメン中心となり、シラス期に多獲されるようになったも見逃せません。社会的な需要の変化が漁獲量を変化させた典型的な例と言えます。

3つ目は高級魚のハモです(図6)。この場合は先に示したサバ類と違って徐々に減少しています。このような変化を示すのは一般に底魚類(カレイなど)に多いようです。生息環境の悪化や獲りやす

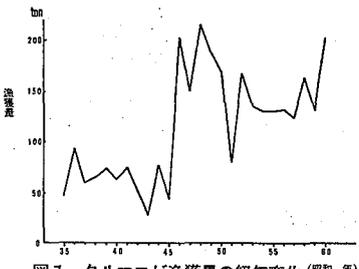


図7 クルマエビ漁獲量の経年変化 (昭和年)

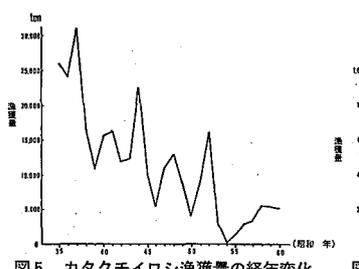


図5 カタクチイワシ漁獲量の経年変化 (昭和年)

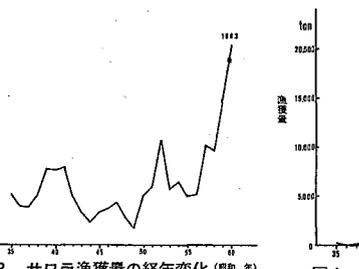


図3 サワラ漁獲量の経年変化 (昭和年)

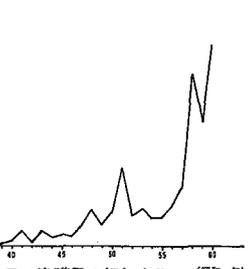


図1 シラス漁獲量の経年変化 (昭和年)

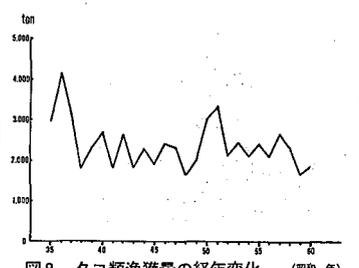


図8 タコ類漁獲量の経年変化 (昭和年)

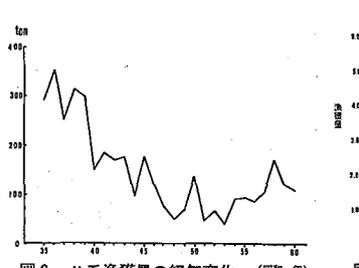


図6 ハモ漁獲量の経年変化 (昭和年)

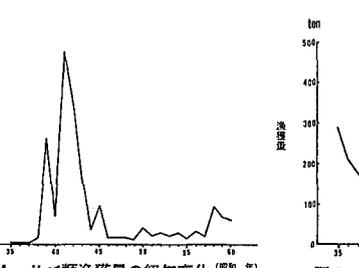


図4 サバ類漁獲量の経年変化 (昭和年)

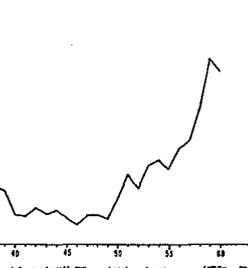


図2 マダイ漁獲量の経年変化 (昭和年)

漁況 (小型底曳網) 明石海峡周辺を主漁場とする

九月二十二日 第三十九回但馬海区漁業調整委員会を但馬水産事務所会議室で開催

一、兵庫県漁業調整規則の一部改正について(諮問)

審議の結果、原案どおりで差支えない旨を答申することに決定されました。

二、稚魚の採捕規制について

昭和六十一年度日本海漁業調整委員会連絡協議会で、富山海区ほか三海区で共同提案がなされた。これは全国的な問題として、昭和六十二年度全国海区漁業調整委員会通常総会でも協議され、資源保護、増大を図るため、稚魚の採捕規制を強化に働きかけることになりました。

本委員会としても、具体的な稚魚の採捕規制及び啓もう運動について協議されましたが、引き続き協議することになりました。

九月二十八日 第一九九回兵庫県漁業調整委員会を兵庫中央労働センターで開催

一、兵庫県の漁業調整規則の一部改正について(諮問)

原案どおりで差支えない旨の答申をすることが決定されました。

二、区画漁業権に係る設定要領等の概要について(総務審議)

慎重な協議が続けられてきたが、地区毎の各種調整も行われ、今議をもって設定要領の審議を一応終了しました。

海況 (明石海峡周辺) 旬平均水温は上旬25.1℃、中旬24.6℃を示しており、平年に比べて上旬は0.8℃下旬は0.5℃低目である。

(大阪湾西部・紀伊水道北部) 9月16日の調査結果によると大阪湾の表層水温は24.2℃、24.9℃の範囲にあり、平年に比べてやや低目である。一方紀伊水道北部の表層水温は24.1℃、25.3℃を示しており、平年並かやや低目である。

(播磨灘) 9月3〜4日に実施した調査の結果によると、表層水温は25.5〜27.5℃の範囲にあり、平年並かやや高目である。水温の水平較差は小さく、なり、秋型分布を示す。

海況 (小型底曳網) 明石海峡周辺を主漁場とする

小型底曳網ではマダコ、ウマヅラハギ、サレエビなどが主に漁獲されている。メイタガレイは少ないが価格は高い。全般的に漁獲は悪い。(一本釣・曳網) 明石海峡及びその周辺海域ではタチウオ、ハマチ、サワラ、サゴシが主に漁獲されている。タチウオはまずまずの好漁を示しているが(1日1隻当り40〜70

漁海況情報

昭和62年9月兵庫県立水産試験場

海区漁業調整委員会だより

会でも協議され、資源保護、増大を図るため、稚魚の採捕規制を強化に働きかけることになりました。

本委員会としても、具体的な稚魚の採捕規制及び啓もう運動について協議されましたが、引き続き協議することになりました。

九月二十八日 第一九九回兵庫県漁業調整委員会を兵庫中央労働センターで開催

一、兵庫県の漁業調整規則の一部改正について(諮問)

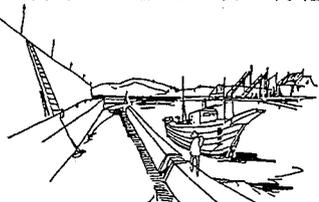
原案どおりで差支えない旨の答申をすることが決定されました。

二、区画漁業権に係る設定要領等の概要について(総務審議)

慎重な協議が続けられてきたが、地区毎の各種調整も行われ、今議をもって設定要領の審議を一応終了しました。

調査地：福良 主漁場：鳴戸海峡、紀伊水道北部

漁業種別	漁獲量(kg)	前年比	キロ単価(円)	備考	
					一日平均
小型底曳網	シラスエビ	1.0	4,000	エビ類	
	カワシエビ	0.3	2,000		
	中	15	700		
	小	3	300		
	アカシ	3	1,000-2,000		
	ガザミ	2.0	1,200-3,000		
	その他	2	800		
	5歳	2	8,000		サゴシ類
	小	0.6	2,000		
	カサゴ	37	1,000		
サゴシ	3	1,100			
タコ	1	1,700			
一本釣	ウマヅラハギ	35	200	まき類	
	フカ	3	400		
	サワラ	3	1,500		
	サゴシ	12	500-1,100		
	エソ	5	100		
	75	1.0	700-1,500		
	10	0.4	650		
	7歳	3-4	1,300		
	4歳	80	650		
	小	8	2,500		
マアジ	10	2,000			
延縄	アナゴ	30	1,550	まき類	
	フグ中	10	2,500		
	大	2	8,000		





／ぎなどの影響を受け易く、資源管理に最も気を配らなければならぬ種類と言えます。(水産動物) 増えたものの代表は何と云ってもクルマエビです(図7)。昭和46年を境に急増していますが、これは種苗放流の開始時期と一致しており、放流効果が見られます。ガザミ類も昭和50年代に入ってから増加していますが、最近ではジャノメガザミ(モンガニ)が増えているようです。兵庫県の代表的な水産動物であるタコ類はこの25年余り漁獲量に大きな変化はみられません(図8)。タコ類は成長が早く、発生・産卵といった生活周期が短いため資源の変動が低く押えられているものと思われま



図9 コウイカ類漁獲量の経年変化(昭和年)

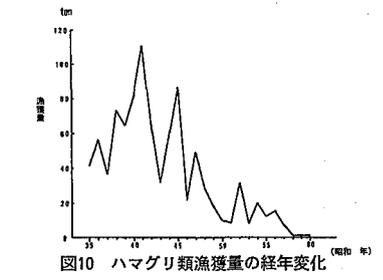


図10 ハマグリ類漁獲量の経年変化(昭和年)

けは全般に減少しています。その典型的な例はハマグリ類です(図10)。もともと漁獲量は少なかつたのですが、それにもかかわらず50トン以上獲れていました。以上を最近ではほとんどゼロとなつてい

ます。その中には資源管理や漁業調整さらには栽培漁業のあり方など、今後私達が取り組まなければならない問題に対する多くのヒントを含んでいます。漁獲統計資料を単に過ぎ去った過去の資料とみるのではなく、今後を聞く貴重な財産として大切にすべきです。(資源部 反田 実)

以上のように各種類ごとの漁獲量の変遷は様々です。そしてその変化の有様にはその種の持っている生活の特性を色濃く滲ませています。漁獲統計はすべて過ぎ去った過去の出来事を表わっています。しかし、その中には資源管理や漁業調整さらには栽培漁業のあり方など、今後私達が取り組まなければならない問題に対する多くのヒントを含んでいます。漁獲統計資料を単に過ぎ去った過去の資料とみるのではなく、今後を聞く貴重な財産として大切にすべきです。(資源部 反田 実)

兵庫JCC通信

今、農協・生協では

農業協同組合 生鮮品共同購入運動 順調に！
県下の系統農協では、一昨年の第二十三回県農協大会の決議を受け、六十一年度から生鮮品共同購入運動の導入を進めています。現在、この運動に取り組んでいる農協は、篠山町農協をはじめとする七農協(五百十グループ)で、六十二年度末には実践中の農協を含め十六農協となる見通しです。この運動は、組合員が健康で豊かな消費生活を送るために必要

な「新鮮」「安全」「良質な商品(生鮮品)」を、農協の生活購買事業を通じて計画的に予約購入しようとするものです。今(この月)一回、注文書の配布、生鮮品の配達、代金回収を行っています。取扱商品のアイテム数は毎回百八十で、将来には百五十アイテムを目標としています。組合員自身が生鮮グループをつくり、自主的な活動を行っており、若い婦人層の積極的な参加もみられ、順調です。

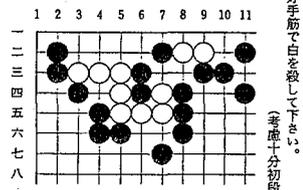
農協の生鮮品共同購入運動はようやく緒についたところですが、新鮮で安全な食品を求める組合員の声が高まっていることから、系統農協ではこの運動を農協の事業活性化へのワンステップとして、広く導入を進めています。生活協同組合 高瀬化が進むなかで、兵庫県の生協では、医療・福祉の面で老人を支えようとするさまざまな活動が行われています。寝たきり老人への訪問看護活動や入浴サービス、デイ・ホスピタル(一日入院)の開設、屋敷サービス、お花見会や七夕会など季節行事の開催、有償での援助活動「コープ」などの助け合いの会」などがあります。日ごろ外出する機会

兵庫県10・11・12の3か月予報

大阪管区気象台発表
秋後半は、冷え込みの強い日が多く冬の訪れは早いでしょう。
10月] 爽やかな晴天の日が多い見込みです。下旬は寒気が流れ込み、肌寒い日が多いでしょう。
11月] 寒い日が多く、日本海側ではしづめる日が多い見込みです。
12月] 月初めと月末には寒い日がありますが、中頃を中心に寒さは柔らぐでしょう。

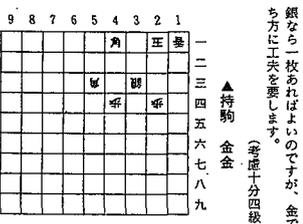
詰碁

九段 橋本 宇太郎



詰将棋

八段 佐瀬 勇次



(解答 次頁)

調査地: 沼島 主漁場: 紀伊水道北部

漁業種別	隻数	主魚種	一獲 日平均 漁獲量(kg)	前年比	キロ単価(円)	備考
小型底曳網	52	カワズ	2	1.0	1,700	
		小	1		600	
	シバエビ	20-40	8.0	300		
	ヒイカ	2-10		大500-中200		
	トラフグ	2-5		1,600(幼魚2寸)		
	アナゴ	3-10	1.5	750		
	マルアジ	3-30		350		
	カマス大	2-5	0.2	1,000		
	小	3-6		350		
	シヤコ	5-10	0.5	200		
季長タコ	2-3		300			
一本釣	58	マアジ	15-20	2.0	2,000	
		マルアジ	3	0.3	900	
		ツバス	2-3		600	
刺網	28	アカシタ	5	0.7	1,600	
		タイ小	5-6	1.0	1,500	
		ウマヅラハギ	30-50	2.5	200	
		シログチ	5-30		300	

漁況の特徴: 約によるアジは前月に比べて好漁。

調査地: 淡路町 主漁場: 大阪湾北西部

漁業種別	隻数	主魚種	一獲 日平均 漁獲量(kg)	前年比	キロ単価(円)	備考		
小型底曳網	25	アナゴ	3-10	0.8	2,300-2,800			
		マナヅオ	5-30		1,800-2,100			
		タコ	2-3		1,600-1,800			
		ウマヅラハギ	10-30		500-550			
		カスゴ	3-8		2,000-2,200			
		5	マダイ	3-10	1.0	8,000-12,000	神交網	
		2	マダイ	5-20	1.0	8,000-12,000	吾智網	
		鮎	シラス	750-1500	3.0	180-750		
		一本釣	15	カサゴ	1-3	1.0	2,600-3,200	
				ハマチ	5-10	1.0	1,200-1,300	
25	タチウオ			10-30		900-950	曳網	
冠縄	5	マコガレイ	5-20		2,800-3,100			
		キス	8-15		3,200-3,700			
		ベラ	10-20	3.0	1,800-2,000			
		ベラキ	5-10	1.0	1,200-1,500			
刺網	5	メバル	4-6		1,800-2,600			
		タコ	3-6		1,400-1,700			
		3	キス類	10-15	1.0	2,200-2,400		
タコ並	2	タコ	10-20	0.7	1,800-2,000			

漁況の特徴: 今年は底曳マナヅオがやや多い模様。

調査地: 明石浦 主漁場: 大阪湾北西部および播磨灘

漁業種別	隻数	主魚種	一獲 日平均 漁獲量(kg)	前年比	キロ単価(円)	備考	
小型底曳網	30	メイトガレイ	1-2	1.0	7,000-8,000	大級網	
		タコ	5-10	1.0	1,200-3,000		
		クルマエビ	2-3	1.0	5,000-6,000		
		アナゴ	3-5	2.0	1,000-2,700		
		マコガレイ	2-3	1.0	2,500-3,000		
		ウマヅラハギ	20-30	2.0	200		
		エビ	5-10		1,000-3,300		
		30	メイトガレイ	2-5	2.0	7,000-8,000	播磨網
			タコ	5-10	1.0	1,200-3,000	
			アナゴ	3-5	1.5	1,000-2,700	
マコガレイ	2-3		1.0	2,500-3,000			
カワハギ	4-5			500-2,000			
3	エビ	4-5		1,000-3,300			
	ベラ	2-3		1,000-2,500			
	ハマチ	20-70	0.9	1,500	吾智網		
一本釣	45	タチウオ	40-70	1.3	700-900		
		ハマチ	5-20	0.8	2,000		
	10	サワラ	1-3	0.3	1,500-2,000	浮釣り	
		サゴシ	4-5		600-800		

漁況の特徴: 底曳は全般に不振。約によるタチウオはまづまづの漁。サワラ、ハマチは悪い。

